

2016年度 神戸大学大学院国際協力研究科  
社会人特別入試 入学試験問題  
〔試験科目：小論文〕

以下のようなデータがある。

- ・1980年代中盤以降、日本の平均家計収入はほとんど増加せず、下位10%の貧困層の収入は減少した。
- ・上位10%層と下位10%層の平均所得の比で測った所得格差はOECD平均を上回った。
- ・所得が中央値の半分に満たない人の割合で測った貧困率は、OECD平均の11%を大きく上回る16%であった（日本の所得の中央値の半分は約120万円）。

このことに関し、自らの考えるところを述べなさい。（100点）